両生類・爬虫類のレプリカを製作しました

恩納村博物館では令和5年度に展示物制作として、村内で生息が確認されている両生類・爬虫類の展示用レプリカを製作しました。

平成26年に刊行された『恩納村誌』自然編では村内で両生類9種、爬虫類26種、計35種類（外来種含む）が報告されています。主な在来種は以下のとおりになりますが、その中から天然記念物に指定されているものなど、標本を手に入れることが難しい貴重種を中心にレプリカを製作しましたので、紹介します。展示準備が出来次第、博物館で展示しますので、ぜひ一度ご覧いただき、フィールドワークの参考にしていただければと思います。

両生類 ◆印の生き物のレプリカを製作

◆イボイモリ
◆シリケンイモリ
◆ハロウエルアマガエル
◆オキナワアオガエル
◆リュウキュウカジカガエル
◆ヒメアマガエル
ヌマガエル

爬虫類 ◆印の生き物のレプリカを製作

◆リュウキュウヤマガメ
◆クロイワトカゲモドキ
◆オキナワキノボリトカゲ
◆オキナワトカゲ
◆バーバートカゲ
◆アオカナヘビ
ミナミヤモリ
ホオグロヤモリ
オンナダケヤモリ
ヒメハブ
ハブ

1. リュウキュウヤマガメ（国指定天然記念物）

甲長が15cmほどの陸生のカメです。恩納村以南の地域ではほとんど確認されないカメですが、これまで、伊武部や南恩納の屋ヶ田地区での目撃情報があったほか、2020年の7月には安富祖にて緊急保護された個体もおり、漢那岳周辺や喜瀬武原周辺の山地にはまだ本種が生息していることが確認されています。

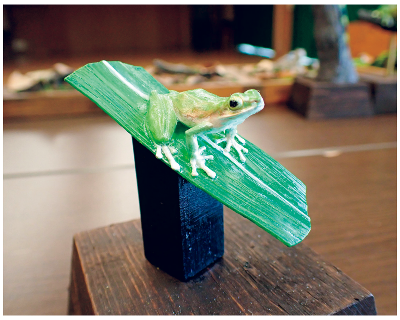
2. オキナワトカゲ

全長が15～16cmになる小型のトカゲです。成体は全身が薄茶色で、背中に3本の縦筋模様が目立ちますが、幼体は尾の後ろ半分が青色に光っているのが特徴です。沖縄では古くから知られているトカゲでしたが、最近私たちの周りからは姿を消しつつあるようです。1980年前後までは、恩納村でも伊武部や名嘉真でよく見つかっていたそうですが、現在の生息域は主に南恩納の沖合にある無人島のヨー島で多数生息していることが確認される程度に限られています。

3. ハロウエルアマガエル

恩納村以北の北部山地森林に生息する樹上性のカエルです。本種は体長が3～4cmほどと小型です。伊武部、名嘉真、喜瀬武原、熱田、安富祖、谷茶、冨着で確認されています。普段は山林に分散して暮らしていますが、梅雨時の繁殖期になると集落後背の山麓林や水田、サトウキビ畑周辺などの水場に下りてきて、集団で盛んに鳴きます。特に安富祖の水田とその後背の森は、本種の一大繁殖地となっており、梅雨の時期には集団の鳴き声が聞こえます。生息環境の減少で、最近はかなり個体数が減少しているようです。

本種は山地性のカエルであることから、名護以北の生物相との関わりをうかがわせる動物であり、恩納村とヤンバル地域とのつながりを考える上で貴重なカエルとなっています。



【参考文献】恩納村誌編さん委員会 2014『恩納村誌』第1巻 自然編